「対話と実行」座談会（H20.10.14(火)　安田町）の概要

●知事あいさつ

高知県の財政（平成20年度）のパンフレット及び「学ぶ力を育み心に寄りそう緊急プラン」（以下のＵＲＬ参照）を基に説明。

（http://www.pref.kochi.jp/~zaisei/joukyou/pamphlet/H20zaisei.pdf
http://www.kochinet.ed.jp/kinnkyuupuranngaiyou.pdf）

●座談会

【集荷場からの直接販売、高規格道路の整備、レンタルハウス事業の補助率・限度額の見直し】

Ａさん：先ほどのあいさつの中でも、知事さんには１次産業に力を入れていただいているということが分かったが、私は農業に従事している。当町でも、古くから施設園芸が盛んに行われているが、農業は安田町だけでなく、中芸地区、安芸、高知県の非常に大事な産業である。しかしながら、ご存知のように、重油の高騰や、肥料を始め生産資材の高騰の中で、施設園芸栽培を行っている農家は大変苦労している。私どもは農業で生きていきたいという考えを持っている。では、農業で生きるにはどうすればいいか、今知事がおっしゃったように、1.5次産業や、他のいろいろな販売を考えた取り組みを大事にしたいと考えている。今から知事にお伺いしたいが、例えば、高知県では従来から系統販売ということで、園芸連を中心とした市場への出荷販売を行っている。これは今まで高知県の販売に非常に貢献している。しかしながら、ここ10数年来、この販売に対して、生産者が非常に危機感を持っている。これだけ生産資材の価格が上がってくると、従来の市場一辺倒の高知県の販売の仕方で、農家は所得が得られるのか、また、それをどのように方向転換してくれるのかということを私どもは日々訴えているが、結果的にはこれという策が出ていない。本日もここに来る前に野菜等の単価を聞いてきたが、昨年の同時期より安い。安い中で、資材価格が上がっている。これでは農業が生活できる産業として成り立たないというのは一目瞭然である。中芸地区の４つの町村に４つの集荷場があったが、その集荷場が３年前に統合した。統合した理由は、自分たちの生活、自分たちの産業は自分たちで守っていく、また切り開いていくという農家の強い決意である。みんなが一同に団結し、ロット数を増やした出荷販売を自らやっていこうと、この３年を取り組んできた。私も中芸で運営委員長を仰せつかっており、この３年の結果、毎年度、億単位で販売額は伸ばしているが、農家の所得は決して伸びていない。やはり資材の高騰が一番の原因ではないかと考えている。そういう中で、先般、私は、県や園芸連、農協に呼び出しをされた。農家は、自分が作ったものの単価を自分たちが決められない。他の産業では、原料が上がった場合は、売価に転嫁するといったいろいろな対策を取るが、農業においては相手が値を決めていて、農家はいくら努力しても、希望の単価で売れない時期が多い。それに対し、中芸では、３年前から、自分たちが責任を持って作った野菜や果物を、希望の単価で売っていくという取り組みを行ってきた。ただ、今申したように、高知県においては、高知県園芸連が基本的には系統出荷という方向で動いていて、単位農協や園芸連から、今回の中芸の取り組みに対して、ストップとまでは言わないが、いろいろなクレームがついてきている現実がある。私が県や知事に伺いたいのは、そういうことをすることが、いけないことだろうか、農家が自分たちで作ったものを少しでも有利

な取引をしたい、また、販売先を見つけたい、そして見つけるためにはどのような販売ができるかを考える、ただ作るだけの農業ではなく、そこまで取り組んでいかないと、農業で生活ができない。農業が衰退するということは、安田町の衰退にもつながっていく。そういうことで、行政も一緒にやっていただいており、私どもの取り組みにもいろいろな補助金を出していただいたり、支援もいただいている。先ほど知事がおっしゃった考えと、私の耳に入ってきていることが若干違うものがある。知事の個人的な意見を、県としての考え方もあるであろうが、是非聞かせていただきたい。

もう一つ、先ほど茨城県や千葉県といった新興産地についておっしゃった。確かに、私たちは遠隔地で、非常に不利な販売をしている。新興産地では、鮮度も非常にいい物が市場に入っている。私ども安田町は国道 55 号に頼っており、国道 55 号に万が一のことがあった場合、自分たちが毎日収穫した農産物が、たった１本の道がつぶれただけで、送れなくなる。これが高知県の現実であり、安田町の現実である。町民としてお願いしたいのは、国道 55 号にとって代わる高規格道路を早期に完成していただきたい。そして、私たちが一生懸命作った野菜が少しでも鮮度のいいうちに消費者の手元に届くようにご尽力いただきたい。

最後に、県単事業でやっていただいているレンタルハウス事業について。当町でも、もう 10 年来、多くの農家や若い後継者がレンタルハウスを利用して、規模拡張や新規就農に大いに貢献している。ただ、10 年くらい前にこの事業が入ったときと現代とでは、状況が変わっている。例えば 10 年前、10 アールの施設をこの事業を利用して建てると、ほぼ、500 万円くらいの経費で建った。ところが、今は、同じものを建てるのに 1,200～1,300 万円くらいかかる。その中で、県の補助金について、率はあまり変わっていないが、限度額がそのままになっている。現状を考えていただき、補助率や最高限度額の見直しをお願いしたい。

知事：今、熱いお話をいただいたが、私どもとしても、今のままではいけない、10 年後に高知県の唯一の強みである１次産業さえもなくなってしまうのではないかという危機感を持っている。１次産業の問題について、平地が少なく高齢化が進んでいる中で何をしていくかというと、できる限り産地を確保できるところは確保していく。その上で、ヘクタール当たりの収量を上げ、作物の付加価値を上げていくという３点だと思う。１点目のレンタルハウス事業の問題については、我々も考えているところで、もう少し限度額や補助率を見直すことができないかということを今検討しており、見直しをしていきたいと考えている。

高規格道路の話は、徹底してやっている。安田町だけではなく、沿線の方々からたくさん言われている。今、土木部長にしても、東京事務所にしても、考えうる限りの最高の布陣を敷いて、働きかけも行っているつもりである。また、国における道路事業の評価方法自体を、いかにして変えさせるかということにも取り組んでいる。人口が減り、利用者が減ってくる、ゆえに道路はいらないという単純な発想で道路の価値を評価されると困る。道路ができることによって通行止め時間がどれだけ減るか、救急車が通れるようになることによってどれだけ救命率が向上するかなど、いわゆる「命の道」としての要素をどれだけ道路事業の評価に加えてもらえるか、これを国土交通省にも訴えて、少し評価方法が変わろうとしているくらいである。国の基準を変えてでも通そうとしているくらいなので、それは頑張っていきたいと思う。

最初の、系統とは別に販売したら、クレームが出ているというお話については、まず超基本

論を言わせていただきたいと思う。釈迦に説法になって恐縮だが、他の方もいらっしゃるので、私の基本認識として言わせていただければ、市場との関係でもいかに価格競争力を持つかが大切だと思う。そのためには、同じ県内の産地同士で食い合いをするのではなく、できるだけまとまっていくということが大原則だと思う。ただ、その上で、そういう大きな戦略と整合的な、一緒に全体として絵図を描ける範囲内でいろいろと工夫をしていくということは必要なことではないかと思う。まずは大きくまとまりを持ってやっていき、こういう系統には有利販売をしていくといったことを組み合わせてやっていくというやり方が取れることが理想ではないかと思っている。昔はマル高ということで、高知県の職員が一生懸命売り込みをしていた。今の時代、県の職員が売り込みをするという時代ではないかもしれない。園芸連さん、ＪＡさんが一生懸命いろいろ販売をしておられるが、ただ、産地間の競争が激化している中で、もっともっと県としても汗をかいて、いろいろな販路の開拓に努力することができないのかということを今考えている。先ほど、言っていることとやっていることが違うとおっしゃったが、まだどのようにやるかということを考えている最中で、やっていない状況である。まとまりのある産地づくりも含めて、例えば先ほど東京にいろいろな売り込みの拠点や販売の拠点を設けたいという話を申し上げた。そこで、いろいろな産物を、直販として売っていくだけではなくて、東京の卸や外食、中食などに売り込みの販売ルートを築いていけないかといったことを今考えている。例えば居酒屋チェーンなどで、本県出身の方がたくさんいらっしゃる。そういうところに売り込みをかけていくような拠点というのを作っていけないか、まとまりを持ちながら多様な販売ルートを開拓していくという道を考えていきたい。いろいろな方との調整をしないといけないのでまだでき上がっていないが、目指すべき方向はそういうことだということで、21 年度の半ばくらいからになると思うが、そういう取り組みをしたいと思っている。

Ａさん：知事の考えも十分伺えた。ただ、私が申したいのは、やはりこれだけ厳しい現実の中でも農家が頑張っているということで、農業でこれからもやっていくことができる体制づくりを、県も、園芸連も、農協も、また私どもも、一緒に執り行わなければならない。知事の考え、方向は十分に理解できるが、早期に実行していただかないと、この 21 園芸年度で我々はもう耐え切ることができないという現実にまで直面している状況である。それともう１点、中芸においては、一つだけ自慢できるものがある。それは、中芸の農家しか販売できない農産物を出荷しているという点である。イオンの中に組合栽培というものがあり、これは農法や栽培履歴、記帳など、イオンが決めたいろいろな厳しい規約をすべてクリアできて初めて出荷販売できるものである。ナスに関しては、全国で中芸の組合しか出荷しておらず、昨年もイオンの 200 数十店舗に組合のナスが並んでいて、全部高知県の中芸産と書いていただいている。そういう販売もできているわけだが、そのことによって、随分と高知県の園芸連に迷惑をかけている。中芸集荷場は、かなりの面積、出荷量を持っているので、その集荷場の荷物が市場を通らずに、イオンに入っていくということになると、園芸連は分荷の問題で非常につらいところがあると思う。そういうこともあって、いろいろな声が出てくる。ただ、自分たちは、園芸連や県やみんなと一緒にそういう販売方法で頑張っていきたいという考えで取り組んでいる。農家が一同でそういう販売に参加していくということをこれから園芸連とも協議してやっていきたい、その中に県も是非入っていただきたいという考えなので、今後ともよろしくお願いしたい。

知事：１点だけ。農業についての基本的な認識は、唯一高知県の中で外貨が稼げる産業ということである。この農業をだめにしていいわけがないという思いは我々も一緒であるので、何もやっていないというようには言わないでいただきたいと思う。燃油対策についても、国の対策を待っていると 10 月、11 月の定植期に入ってしまう。そこで、７月の補正予算で、国が執行する前に３重張りの対策などもやり始めた。私は農業をいかに大切にするかということを必死になって考えているので、その気持ちは分かっていただきたいものだなと思う。

【農家経営改善支援事業の継続、町道国道東島線の整備】

Ｂさん：農業の厳しさ、実情についてはもう私が申し上げるまでもなく、知事さんは分かっていると思う。安田町は１次産業の町であり、１次産業の低迷によって、安田町の町全体が低迷しているという状態になっている。何とか１次産業の浮揚となる施策について、早急に手立てをお願いしたいと思うが、その施策の一つとして、近年、農業の経営支援を必要とする農家が急増している。県は、平成 19 年度から、農家経営改善支援事業を行ってくれているが、３年間でこの事業を打ち切るという話を聞いている。この経営改善支援事業の継続をお願いしたい。

もう１点、町道国道東島線の工事については、県の代行事業と聞いている。平成 21 年度に国道と町道とがつながり、完成して通行可能となるようだが、町道との接続から以北、中芸集出荷場までの区間が非常に道幅が狭く、まだ整備がされていない。中芸地区の集出荷場の統合によって、田野町、奈半利町、北川村の生産者が、農産物の出荷をするのに主要な道路となっている。また、中芸集出荷場の作業員さんの通勤道路、また、東島地区民の生活道路として、幅広い利用がされている。地区民を始め皆さんが不便を感じているので、中芸集出荷場までの区間について、事業を継続し、早期に整備していただきたい。

知事：経営支援は、強化すべきときだと思っている。21 年度から新しい施策をいろいろ打ち出していくが、その中で強化する方向でやっていきたいと思っている。究極の目的は、農業を業として残していくというのもあると思うが、農家の所得を増やして、継続できるようにすることだと思っているので、経営支援をもっと強化していく方向で施策を進めていきたいと思う。

２点目は、現在工事中で、引き続き続けていく。

【造林補助金制度の簡素化、地元の製材業者の育成、業種転換に関する森林組合への助成】

Ｃさん：森林組合のＣです。９月議会には関心を持っており、シカの頭数調整について、助成が出るということを聞いて安心している。ありがとうございます。

３点お願いがあって、知事さんの耳にも届いているかもしれないが、森林の造林補助金制度にいくつもの種類があり、いろいろな制約を受けて、末端まで来ると使いにくい。知事さんは財務省出身ということで、県の方から林野庁に「できるだけ簡素化してくれ」という要望をかなりしてくれているらしいが、財務省の方がなかなか頭が硬いと聞いている。県単の緊急間伐総合対策事業などは、自分で間伐をしてもお金が出るとか、作業道をつけても、幅員と延長があったらいいということである。しかし、国費を入れると、いろいろな制約があり、去年、県はお金を余らせて国に返したということもあるので、使いやすい制度を国に要望していただく

ことをお願いしたい。

それと、中芸はかつては製材の町で、中芸の産業を支えてきていたが、もうほとんどなくなった。銘建工業や住友などの大企業にも来ていただいて、安定した材の処理をしてもらわなくてはいけないが、産業の振興という面から見ると、地元にある小さな製材業者をできるだけ育成していただきたい。小さな製材業者があることによって、市場にも競争が出てきて、価格面にも影響してくる。例えば、パルプ会社は四国に１社くらいしかない。そうすると、価格を確実にコントロールして、ちょっと余ると、価格をどんと抑えるということもあるようである。将来、大企業が来ると、そういう状況になるおそれもあるので、できるだけ地元の産業を支援してやっていただきたい。

最後に、私どもの森林組合のことで恐縮だが、安田町は林野面積が小さいので、事業を馬路村さん、北川村さん、室戸市さんにもらってやっている。そして、できるだけ地元に事業を確保しておかないといけない、雇用者の雇用の安定にもつなげないといけないということで、今ユズ栽培を手がけている。今年から本格的に植栽した。実がなるまで５年くらいかかるが、実がなりだしたら、販売先は割と安定していると思う。ただし、始めるのに多額の費用が必要である。建設業については、助成制度もあると聞いているが、森林組合についても、そういうことについて関心を持っていただいて、助成制度がいただけたらお願いしたいと思う。

知事：造林助成制度が複雑すぎて、複雑すぎた結果としてお金を余らせたということで、これは、議会でも厳しいご指摘を受けているところである。これについては、引き続き努力させていただきたいと思う。次から次へと新しいものを継ぎ足し、継ぎ足しで作っていった結果としてこうなっていて、一旦整理しないといけない時期なのだろうと思う。

製材の話について、銘建工業さんは本当に来てくれるかどうかまだ分からない。苦戦しているところだが、大きいところが来てくれると、山から木を切り出しやすくなってくるという意味において、山全体が活性化するということがあると思う。住友さん、銘建さん、また、多様な製材業者さんがあって初めて価格も適正に決まっていくということなのだろうと思う。今、山からの切り出しが極端に落ちてきているので、それに勢いをつけるためにも、是非とも来ていただき、また、地元の伝統ある製材業者さんの活性化にもつながっていくような仕組みづくりを考えていきたいと思っている。大きい用材を取ってくれるところが出てくると、例えばバイオなども、生きてくる可能性が出てくる。用材は売れる、すると、外の皮の部分などを使って、バイオのチップを作って、これも売ろうと、木が完全に活かしきれるという体制が作れる可能性がある。できればそういう仕組みづくりをして、森の木を全部活かしていくというシステムを作りたいと思っている。ただ、まだ努力をしている状況であるのでご理解いただきたい。

３番目の、森林組合さんが新しくユズ栽培などに進出をされようとするときの助成制度について、そういうニーズは県内に結構あると思いますか。

Ｃさん：馬路の森林組合は昔から栽培しているらしいが、他に森林組合でそういう事業を取り入れているところはないと思う。助成制度などがあって成功すれば、それに乗ってくると思うので、関心を持っていただきたい。

知事：分かりました。即答はできないが、そういうことを念頭に置いておきたいと思う。建設業さんが、今どういう状況かというと、予算はピークの７割カットで、人は３割カットである。どちらかというと、人が余っておられるのではないかと思われる。これを言うと、「そんな簡単に転換できるか」と怒られるが、他方、中山間では農業などで人が足りない状況になっており、業種の転換を少しでも図れないかということで、建設業についていろいろな助成制度がある。しかし、なかなかうまくいかず、そんなにしょっちゅう成功事例が出てくるわけではない。なので、もう少し、お金の面だけではなく、きめ細かいバックアップができないかということを考えているが、確かに、例えば、ユズ栽培は今人手が足りない。その参入元として、例えば森林組合さんについても考えられないことはないのかもしれない。それを念頭において勉強させていただきたい。

【アユなどの遡上環境の確保、間伐事業の推進、河川に配慮した工事】

Ｄさん：私は、安田川漁協役員、そして山間に住んでいる一人として意見を申し上げたいと思う。安田川アユおどる清流キャンプ場の指定管理を受けている一人でもある。「随分いい名前のキャンプ場ですね」ということで、キャンプ場の看板の前でお客さんが記念写真をよく撮っている。そういうことで、たくさんのアユがおどっていてもらわないと具合が悪いし、漁協としてもそうで、責任は重大だと思っている。安田川のアユは、全国的に名を売っているし、国道沿いには大きなアユの看板があるということで、安田川に従来のようにたくさんのアユがきてくれることを心から望んでいる。そういう中で、河川組合としてどういうことをしないといけないのかなと常々思っているところだが、自然が相手ということで、なかなか難しいところがある。昨年度、県の工事で、河口部分の堆積土砂の片付けの工事があって、産卵場の整備をしていただいた経緯がある。今年のアユの状況は、どこの河川もあまり良くない状況で、安田川もそう極端に漁が増えたとかいうことではないが、他の河川に比べれば、かなり効果があったようで、先日も 32㎝ のアユがかかっていた。今までそういうアユが少なかったが、昨年の産卵場の整備が効果があったのか、天然遡上が早く、そのアユが大きくなったものと我々は判断している。漁協として、是非今年も産卵場の整備をやっていただき、また、河川環境を良くするために、家庭排水等の住民への啓発等もやっていかなければならないと考えているところである。

**　そこで、県にお願いをしたいのは、河口部分にかなり堆積土砂がある。アユなどは、一旦海に出て、小さな稚魚が川を上ってくる。そのときに汽水域、海の水と川の水が混ざり合った区域が広くあるということが大変大事なことであるので、是非その点をご考慮いただきたいということと、もう１点、アユなどが遡上するときに、途中で堰堤があり、そこで止まってしまうという場所がかなりある。なので、堰堤について、魚道の整備をお願いしたいと思っている。そして、先ほどＣさんから話もあったが、特に河川に関しては山が大事で、最近の山は大変荒れてきていて、山が水を持たなくなってきているので、間伐事業を十分進めていただきたい。それから、今、県道安田東洋線の整備をあちこちでやっていただいている。この県道は、河川と並行して走っているという関係もあり、工事でどうしても河川に影響が出てくる場所が多々ある。安田川を観光資源として大事にしていきたいと思うので、景観に配慮していただいた工事をお願いしたいと思う。**

知事：最後の、景観に配慮した工事というのは、心がけるべきことだと思う。

山が大事というお話もおっしゃるとおりで、森林環境税をいただいて整備しているということに加えて、協働の森事業が今 32 件ある。今日も締結したが、従来より加速させるために、CO_2の吸収量の証書を作って売り出すことによって、人気が上がった。そういう工夫をして、企業の皆さんとも力を合わせながら進めていきたいと考えている。森林環境税とともに、協働の森事業は、本県がずば抜けて進んでいる事業であるので、こういうものを活用してやっていきたいと考えている。

最初の河川の問題について、清流は、本県の売りの中の売りである。単に水が澄んでいるだけではなく、いろいろな魚がたくさんいるような豊かな川をつくっていきたい。まだ私と一部の人間だけで温めているアイデアだが、川の整備の際に、いかに滋味豊かな川にしていくかという観点を入れ、今後の方向の一つとして打ち出していきたいと思っている。そして、実は、いろいろな川の方から、濁流の問題でとても怒られている。「濁った川をどうするつもりか」と言われて、一瞬困るときも確かにある。濁流は大きな流れの話であるので、森を整備するということでお答えする場合もある。また、打つ手を打てばそれなりに緩和される部分もあると思うので、こういう問題にも取り組んでいかなければならないと思っている。もう一つ、滋味豊かな川にするためにはどうすればいいのかということを研究していきたいと思う。堰堤を作るにしても、魚が遡上できるように作っていくとか、また、ちょっとした石の配置の工夫で水温を変えて、アメゴが返ってくるようになったというお話も伺った。ささやかな工夫で大きく川の豊かさが変わってくるということを最近勉強していて、そういう方向で、いかに川を滋味豊かにしていくかという観点を持ってやっていきたいと思っている。

【安田町における商業の現状】

Ｅさん：今日はここに来るのが本当にいやでいやでたまらなかった。というのは、商業部門の代表として出席してほしいということで依頼を受けて、愚痴やぼやきを言うしかないとずっと思っていた。何とか明るい話題を提供したいと考えたが、やはり浮かんでこない。そういうことで、本町の今の商業の現状を報告したい。10 年以上前の８月 31 日の夜、店のシャッターを閉めようと表に出たら、軽四のトラックが停まっていた。「前の文房具屋に画用紙を買いに来たが、閉まっているから開けてもらえないか」ということで、電話して開けてもらったが、魚梁瀬から孫の宿題の画用紙を、往復２時間かけてここまで買いに来たという話だった。馬路や魚梁瀬の人は大変だなというのがそのときの感想だったが、今、町内で豆腐一丁買うのに、田野に行くか安芸に行くかという選択を迫られる状況になりつつある。25 年ほど前に、商工会の勉強会でコンサルタントの先生を呼んで、商店街を見てもらった感想をお聞きしたら、「もう手遅れ」、「手術をしても難しい」、「そのままじっとお迎えを待つ方がいいだろう」ということだった。これは先生流で奮起を促す意味でおっしゃったと思うが、それから 25 年、道路事情もそんなに変わらず、何とか安田の商売人は生き延びてきたと思う。しかし、正に風前の灯となっている。小売店が町内には約 20 店舗あるが、その半分の経営者が 70 歳以上である。60 代が５人、50 代が５人というくらいで、私は下から数えて２番目か３番目というくらいである。画用紙を買うのに安芸まで行かなければならなくなる日はもうそこに来ているのではないかと考える。山間地では限界集落ということが最近よく言われるが、今、安田町は限界商店街かなと考えてい

る。せっかく知事さんがおいでくださって、こんな寂しい話ばかりして申し訳ないが、しかし、高知県のほとんどの市町村がこういう問題を抱えているのではないかと思う。ただ、一筋の光として、国道沿いに新しい物産販売の施設ができるということで、この施設を起爆剤として、何とか商業復活ができないか、町並み保存であるとか、酒蔵巡りであるとか、いろいろな知恵を出し合って、何とか復活したいなと思っている。

知事：移動手段が発達し、昔と違って、地元じゃないと買い物ができないという状況が変わってきてしまった。その中で、地元の商店街が段々消えていくという状況である。寂しいが、全国で起こっている大きい流れなのだろうと思う。ただ、他方で、地元の良さを見直そうという契機が出てきているのも確かだと思う。グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなど、地方に行って、そこで住んでみて観光体験をしたりといったことが流行りだした世の中でもある。もう一つ、やはり商店街、商業というのは、いろいろな産業が栄えることに伴って栄えていくものだと思う。１次産業が栄え、林業も栄えて、アユがどんどん取れるといったことと併せて栄えていくと思う。なので、全体の振興と併せてどうしていくのかということを一緒に考えていくということなのではないかなと思う。今、地場産品の販売をされるというお話があった。こういうものは、いろいろな意味において希望が持てると思う。単に地場産品を直販するというだけではなくて、例えば地元の観光の拠点としても使えると思う。さらに、隣の田野駅屋さんのお話を聞いたときになるほどと思ったが、地元の商店街の方が田野駅屋さんに出荷して売られているそうである。むしろそちらの方が売上げが大きいという話も伺った。そういう形で経営を維持していくということもあるかもしれないのかなと思う。帯屋町も苦戦しているくらいなので、そんなに簡単なことではないと思うが。ただ、ある方に伺ったことで、象徴的で意義深いお話だと思ったのは、例えば、イオンさんの話が先ほどあったが、イオンは非常に魅力的なショッピングセンターだが、観光客は自分が住んでいるところにもあるイオンには行かないであろうと。逆に言うと、魅力的な商店街であれば、地元の人だけではなくて、観光客を引きつける武器にもなる。地元の商店街独特の強味が実は潜在的にあると伺って、私もある意味、目から鱗という感じであった。今、そういうものが見直されつつある。さらに、安田町さんでは、地場産品販売ということで強化をされて、新しい武器もできつつあるところである。そういう中で、どう模索していくかということではないかと思う。

～休憩～

【教員の指導力、学力向上、町内の子どもたちの状態、教育委員会の広域化】

Ｆさん：教育委員をやっているが、ＰＴＡ活動も含め今まで感じたことを教育についての意見と要望という形で発表させていただく。大きく分けて、１つ目、教員の指導力について、２つ目、学力向上について、３つ目、町内の子どもたちの状態についてである。

教員の指導力について、高知県は学力テストで全国 46 位だが、子どもたちの潜在能力には、全国的な格差は考えられない。学力上位県は塾通いの子どもが意外に少ないというし、逆に高知県は多い。高知県の教員の指導力には大いなる不信感を持っていて、低迷の大きな原因となっているのではないかと思っている。教員の皆さんには、46 位という順位に大いなる危機感を

持っていただいて、他の四国勢に追いつく努力を願いたいというのがまず１点。次に、学校、地域、家庭の連携が叫ばれて久しいが、学校側が他の２者、地域と家庭への依存度が高くなっていやしないか、教育現場が若干逃げ腰になっているような感じがする。子どもたちは教員の態度などに大変敏感で、そういうことから学習意欲をなくしたり、学校への不信感が高まる場合が十分にある。教員の皆さんには従来以上の創意工夫、やる気の志を高めていただいて、一段と行き届いた指導をしてほしい。３点目に、積極的で大変評価が高い教員の方々も多くいらっしゃると思うが、面倒な事項に取り組もうとしない、事なかれ主義の風潮、あるいは情熱不足、そして地域や保護者とのコミュニケーションを持とうとしない教員が年々増加していると感じる。子どもたちは先生を選べず、子どもたちにとって、その影響力は大変絶大である。教員各位は初心を忘れないで、教育者という自覚とプロ意識を再確認して現場に立ってほしい。４点目に、県では、県外での教員採用説明会の実施を今後の方策に掲げておられるが、自分自身、大変意義深いと感じている。是非実施していただいて、有能でやる気にあふれた県外の教員の増員を実施してほしい。最後に、安田小中学校は非常に小規模である。小規模校の教員の数の削減は、ひいては学力低下を招くのではないかと思うので、配慮をお願いしたい。

続いて、学力向上について。１点目、学力テストの結果を受け、全国平均への引き上げを目標ということだが、むしろ、学力以上に心の教育に重点を置いて、思いやりの心や道徳心、世の中の仕組みや社会の流れなど、人間性を向上させる事項を習得させるべきではないかと思う。学力偏重では不登校や非行の増加に拍車をかけるのではないかとも思う。２点目に、どうして勉強しないといけないのかということを理解、納得できないまま、漠然と通学している子どもたちが多数いるのではないかと思う。例えば、数学の因数分解や方程式について、将来の日常生活には不必要だと子どもたちは敏感に感じていると思う。勉強することの将来的な意義を、家庭でも言わないといけないであろうが、学校においても理解させる必要があると思う。３点目に、以前、ある教員の方から、地元の受け皿が乏しいため、学力の高い子どものみならず、中央志向に傾く場合が多い、地元が優秀な人材を失うのは非常に残念であるという声を聞き、本当に的を射ていると思った。若者定着は、安田町はもとより、県勢の浮上にも当然不可欠であると思う。そのためにも、労働環境の整備・改善は早急に結果を残していただきたいと思う。

３つ目の町内の子どもたちの状態、環境について。１点目に、昨年４月に安田町では、町内の学校の統合を果たした。安田小中学校ともに、子どもたちは比較的安定した状態の中、切磋琢磨のうちに成長していて、以前に増してよい状態ではないかと思う。特に、安田中学校の方は、近隣の中学校と比べても大変良好だと思う。これは先生方の不断の努力が感じられるところである。２点目として、小中学校とも、耐震補強の方もほぼ十分対応できているし、また、給食の調理場施設も最新設備となって、非常に充実している。また、県内で先駆けて、公立の認定こども園が設置され、大変良好な環境であると感じている。３点目に、ＰＴＡ関係で、安田小中ＰＴＡでは、主な活動として、町内外の教育関係者との懇親会や、年間に３回地区に出向いての座談会を会員や先生の参加の下、実施して、課題点や疑問点について議論している。防犯対策としても、防犯パトロール「見守っチャリ隊」を結成して、月２回町内を自転車で巡回し、防犯、啓発を行っている。４点目に、残念なことであるが、先月、ＰＴＡの主催で秋季懇親会という催しを行ったが、参加対象である小中学校の先生のうち、小学校の教員のほぼ全員が不参加だった。地域と保護者との交流の絶好の場を逃した。この辺にも、教員の方のモラ

ルというか、意識の低さを感じた。こういうことを、保護者、子どもたちは敏感にとらえるので、学校運営にも響きはしないかなという危惧をしている。

最後になるが、教育委員会の広域化について、中芸でまとまる、あるいは、芸西から東でまとまるという情報等を聞く。本来、教育委員会で結論を出す話だと思うが、知事さんの見解、お考えをお聞かせいただければと思う。

知事：貴重なご意見、ありがとうございました。県行政と教育委員会は独立していて、私の権限は限定されているが、教育に力を入れたいと思っている者として、話をさせていただきたい。

まず、教員の指導力について、本当に頑張っている先生もいらっしゃるが、そうでない先生がいないのかというと、いらっしゃるということなのだろうと思う。そこは残念な点だと思う。そういう中で、優秀な人材を採用するという観点から、県外からも採用していくということをやっていかないといけないと思っているし、実際に、実施をしていくことになっている。今、小さい学校が多いというお話をされた。要するに切磋琢磨をする場が、先生方にとっても、不幸なことに、今まで不足していたのではないかと感じている。およそ社会人は、就職後、先輩に鍛えられ、お客さんに鍛えられてという形で段々成長していって、いろいろなコミュニケーション能力などもつけていくと思うが、特に小さい中学校で、例えば数学の教師で赴任をすると、その中学校の中では、数学の先生が１人しかいないという状況が生まれる可能性もある。都会で、数学の先生が５人も６人もいたら、先輩からいろいろ鍛えられたりしながら、いろいろな能力を身に付けていく、いわゆるオン・ザ・ジョブ・トレーニングもされていくのだろうと思うが、そういう機会が欠けていたのではないかと思う。資料の中の「教員指導力改革」で、「学校でのＯＪＴの推進」と書いてあるが、もう一つ、少し広域的に頻繁に研修の機会を持つようにするということをやっていきたいと思っている。また、地域で開いていただいている懇親会などには積極的に参加するよう促してはどうかと教育委員会に伝えようと思う。

２番目の学力向上の問題について、おっしゃるとおり、心の教育向上にも重点を置かないといけないと思う。道徳心や、対人関係を維持できるかということも本当に大切なことだと思う。今の緊急プランは、あまりにも学力の問題がひどいことに対して緊急に対応しようとしているもので、より本格的な道徳教育の観点なども含めた「教育振興基本計画」を、来年の６月末までに作ることになっている。ただ、その上で、学力について私が思っているのは、ここまで残念な状況にある中で、これを何とかしようとすることが学力偏重だろうかと。これは、他の県では当たり前の状況に戻そうとしているわけなので、偏重とは言わないのではないかなと思う。

Ｆさん：非行率や不登校率も多い。

知事：不登校率が多いというのは、同じことの裏返しかもしれないが、結局学校が子どもたちにとって、行きがいのある場にはなっていないということだと思う。例えば、中学３年間ずっと数学が分からないで、学校に行って楽しいわけがない。学力の定着状況について、しっかりフォローアップができていないということも不登校の一つの原因だろうと思う。他方で、いじめは全国平均並であり、学校の雰囲気が陰険なのかというと、高知の子どもはそんなに悪い子ではない。それらを考えると、学校が、授業時間も含めて、行きたいと思えるような場になって

いないのではないか。不登校の問題には複合的な要因があるだろうが、そのうちの原因の一つとして、学力の問題があるのではないかと思う。一言で言えば、あまりにも高知県だけひどい。だからこれを何とかするということは、今緊急に取り組むべきことではないかと思っている。

それと、若者の定着という話、おっしゃるとおりで、職がないからというのは大きい話だと思う。冒頭から申し上げているが、この10何年間、人口が全国に比べて15年先行して減る、高齢化率が10年先行して増えているという構造的な問題として、県内の経済自体がどんどん小さくなってきている。それに対して、統計を見て今になって分かることで、結果論であるが、外にもっと打って出て行くべきだったと私は思っている。だが実際は、外向きの事業は、どちらかというと縮小されている。今は、構造的にいろいろな外貨を稼いできづらい、所得が得づらいという状況に残念ながらなってしまっている。麻生総理は日本経済は全治３年と言ったというが、高知県はどうであるか。何かを少し変えたらすぐに良くなるという問題では決してないと思う。例えば、販売のためにもっとＰＲしたらいいのではないかと言っても、小ロットの生産地がついてこられるか、むしろ、売り込みをかけたが小ロットで追いつかない、結果として相手の信頼を失ってしまうということになりかねない。生産から流通、販売、すべてを見通して、外貨を稼げるような体質づくりなど、構造的な問題から手をつけていかないといけない。少し時間はかかると思うが、根本的な治療をしていかないと、高知県の10年後はないと思う。この点はトータルを見渡した産業振興計画をつくって、必ず改善していくようにしたい。劇的に変わるということはないと思うが、しっかり打つべき手を打ち、構造的な問題の解決さえできていけば、それなりに良くなっていく時期は来るのだろうと私は信じている。幸い「龍馬伝」もあり、その機会を縦横に活かしたいと思う。もう一つ、若者が県外に出て行く大きな理由の一つに、進学時の問題があり、私立の文系大学に多くの人数が毎年出て行っている。その方々がどれだけ帰ってきているかという統計はないが、身近な実感として、みんな行ったきりになっているのではないか。もちろん、ご本人の選択で県外に出て行かれている方については、全くの自由であり仕方ないが、残りたいと思っているのに、県内に学びたいことを教えてくれる場がないから仕方なく県外に出て行っているという人もいるのではないだろうかと思う。そういう観点から、県立女子大学の問題、高知工科大学の問題にしても、進学先としてニーズの多い社会科系学部をいかに整備していって、県内で高等教育を受けたい若者たちを県内に残らせるようにするかというのが、次の課題になると考えている。

教育委員会の広域化については、私は、結局、教育委員さんの問題というより、教育委員会事務局の体制の問題ではないかと思う。学力の問題なども、地域地域によって課題はいろいろ違うと思う。地域の実情に合わせた政策づくりをやっていかないといけないとすれば、政策企画力をつけていくために、教育委員会の事務局がそれなりの体制を持たないといけないと思う。そういう点からすると、小さい単位で小さな事務局ということがいいのか。実際に、教員の方が事務局に入っていない、いわゆる事務職だけの教育委員会も結構ある。なので、ある程度広域化することで、事務局の中に非常に指導力のある教員さんなどが入っていくことによって、全体としての企画力、政策立案能力を高めることができるのではないかと思う。そういう意味において、私は広域化というのは、一つの目指すべき方向ではないかと考えている。ただし、これはケースバイケースなので、何が何でも広域化と一つに決めきるということではなく、実情に合わせてやっていくべきだと思うが、ベクトルとしてはそちらの方向だと思う。

【若者同士の縁結び、龍馬伝の効果を高知県全体に、子どもたちが進んで学ぶ姿勢】

Ｇさん：安田町の 3,200 人余りの町民の方々に、活力と、潤いと、夢、希望が持てるようにするために微力ながらでも力を注ぎたいという思いで、私は、安田町の文化財、古民家などを大事にしながら、県内外に情報発信して、交流人口と外貨を少しでも獲得できるようにという思いで、ボランティア活動も行っているＧと申します。

私は、行政というのは、町民と県との心が通って初めて温かい、生きた行政ができるのではないかと思っている。知事さんは昨年の 12 月に知事に就任されたが、私は非常にうれしかった。なぜかと言うと、土佐高知の風土で生まれて、私たちと同じ心情を持っているからである。そして信頼と安心を覚えた。また、政治理念として、「対話と実行」を掲げ、それぞれの地域の実情を把握されて、行政としての施策を創出しようとする姿勢は非常に心強く、我々安田町民としても、本当に期待と夢とを持って頑張っていくことができる。安田町を今後ともよろしく、絶大なるご支援をお願いしたい。

１点目に、町の活性の一番の根源たるものは何かと考えると、今はどこでも、少子高齢化ということが言われている。その対策を、国もいろいろ頭をひねりながら講じている。子育て支援であるとか、妊婦さんや旦那さんについて、余裕を持って子育てにまい進していただくための物心の支援といった施策については際立って見えるが、大事なことが抜けているのではないかと思う。それは、やはり若い人同士をカップルにする、縁結びといったことである。縁結びについても、県は支援をしてくれているし、安田町でも、自然豊かな小川のせせらぎで出会いを生むということも、住民を挙げてやってくれていて非常にありがたい。昔は、地域住民が、若い者たちに心を持ってお世話をして、カップルができ、若いエネルギーが継承されていく時代があったが、今は個人中心的な生き方になって、これでは本当に将来が寂しいと思う。結婚という状況になっていない若い方々が非常に多く、我々の周囲にもいる。今の若いエネルギーを育て、その者たちが子どもを産んで、子々孫々高知県の繁栄、安田町の繁栄を描けていけるような、民間にぽつぽつあるような結婚相談所といったようなものができないか、そういうことも真剣に考えていかなくては、県の浮揚につながらないと思うので、検討いただきたい。

２点目に、観光面のことである。今、私もボランティアでそういうことをやっているが、知事さんは、県の浮揚の一番の大きな線になるのは、農業と観光ではないかということを言われたと思う。９月県議会における知事の提案理由説明で話されたが、「龍馬伝」が再来年ＮＨＫの大河ドラマで放映される、これを大いに利用して、高知県の観光に活かしていく、また、人口交流と外貨獲得を考えなくてはいけないということを言われて、私もそうだなと思った。ただ、龍馬については、桂浜に銅像があって、高知市中心だというイメージをほとんどの人が持っているのではないだろうかと思う。しかし、高知市近郊が豊かになればそれでいいというようなことではない。盟友である中岡慎太郎は北川村出身であるし、安田町には、海援隊を共にし、高知県知事も務めた石田英吉がいる。坂本龍馬の人格は高知市を中心として形成されたものではない。他にも、安田町には高松順蔵もいて、奥さんは坂本龍馬の一番上のお姉さんである。義理の兄のところに坂本龍馬がたびたび訪れている。また、岡本寧浦（ねいほ）は土佐藩の教授として召されて、土佐藩の志士たちにいろいろな影響を与えている。安田町はそういう教学の町なので、それと関連させ、高知市だけではなく、東から西まで糸のつながる観光ルートを

考えていただければと思う。

３点目は、Ｆさんが学力についておっしゃったが、私はまた変わった角度で子どもの成長に思うことがある。例えば、昔は高知県の生徒は、野球、相撲が非常に強いといった特性があった。現状は、不登校や学力がワースト２位といった悲しい状況になっている。そういう状況を見ると、私は本当に子どもたちが学力を身に付けなければいけないという気持ちになっているのか心配になる。与えられた宿題を家でするのではなくて、親が「塾に行ったらいいではないか、それで間に合う」と言っているということも聞く。学校で先生に対する信頼を持ったことで勉学をするとか、自ら勉学をこういうふうにやらなくてはいけないのだといった意志を持つこと、また、もう一つは、親の家庭でのしつけで、子どもに親の生き様を教えながら、漠然としたことでもいい、人生に目標、目的というものを持たせるような習慣を、高知県の地域教育、家庭教育の一つの姿として打ち出せないだろうか。高知県の教育の健全育成のスタイルができないか。以上３点をお願いします。

知事：１点目の若いカップルの縁結びという話だが、確かに、高知県は若い方の人口が減ってきていて、確率論的に出会いが少なくなっている。そういう場を作るべきではないかという議論がかなりあると思う。昔は、世話好きの方がいらっしゃって男女を結び付けていたということも聞くので、そういう方にもっとお願いをするとか、出会いの場づくりをするとか、少子化対策県民会議というものがあるが、その中で議題として上がってきている。まだ具体論ができあがっていないが、出会いの場づくりについて、公的に何かできないか、工夫をしたいと考えている。

２点目の観光について、「龍馬伝」の効果が高知市だけであっていいわけがないと思っている。ＮＨＫの会長さんのところにお礼に行ったときには、関係の市長さん、村長さんにも一緒に行っていただいた。何を意味するかというと、坂本龍馬は、全県内のいろいろな人のつながりで支えられているということをＮＨＫにＰＲしたかったということである。今、龍馬伝推進協議会というものをつくっているが、そちらにも各市町村から入っていただくようにして、ありとあらゆる幕末の維新の歴史などを活かしきって、観光ルートづくりをしていくということだと思う。大切なのは、宿泊数をどうやって増やすか、もっと言うと、観光客の客単価をどうやって上げていくかである。関連施設があっても、そこにお金を落とすところがないということではなくて、そのそばにおみやげものがあって、ちょっと休んで何か食べていこうかといったように、少しでも客単価を上げていく工夫をすることが重要だと思う。もう一つ、大手の旅行会社さんがいろいろな観光ツアーをしっかり組めるような体制を整備していかないといけない。今、高知県は 300 万観光地で、功名が辻のときにも 320 万人にしか増えなかった。400 万人、500 万人にするために、どういう基本的な条件が欠けているか、この勉強を一からし直さないといけないと思っている。今回、補正予算でお認めいただいたので、年末までにかけて、東京などから業者さんや専門家を呼んできて、どこが足りないか率直にいろいろ教えてもらおうという試みをしようと思っている。

３点目は、Ｆさんもおっしゃった話で、確かになぜ勉強しないといけないのかということの教育、例えば、「３×（－４）＝」の答えを何に使うかということを教えることも必要なのかもしれない。教育委員会にもいただいたご提言として伝えたいと思う。

Ｇさん：今、中芸の５か町村で、魚梁瀬の森林鉄道遺産を保存・活用する会というのを設けて、各５か町村の行政にいろいろなご支援をいただいている。鉄道の石積みなどを調査報告書にまとめて、国の重要文化財の指定を受けようと申請をすることにしている。またいろいろなことで県との関わりができていくことになろうと思うので、是非ご支援をお願いしたい。

知事：はい。

【安全・安心な道の確保、加工品づくりの取り組み、シカ捕獲報償金制度の簡素化】

Ｈさん：私は、道路のことと、商品開発について述べたいと思う。

四国８の字ネットワークの早期完成、伊尾木～下山間の道の延長２㎞、これは現在やっていただいている。道は暮らすために必要不可欠なライフラインである。今年の７月の集中豪雨で、生活道がかなり破壊された。町の方の尽力で、現在工事にかかっているということで、助かっている。これくらい集中豪雨が来たら、これに地震が加わったらどうなるか、生活の道、命の道が途絶えてしまうのではないかと大変不安になっている。最近も県道に直径 10㎝くらいの石がしばしば落ちていることがあって、私がこちらに戻ってきた 26 年前と道が全く変わらない。安全な道が欲しい、安心のできる道が欲しいと思っている。ここは素晴らしい暮らしのできるところだが、道さえ良ければというのがいつも思うことである。私たちが年老いたときに子どもが「安田に住んでて良かった」と言ってくれるような、家から通える、県内での就職、進学というのを願っている。

次に加工品のことで、今、中山地区で取り組んでいるのが地産地消で、地元にあるもので商品を作ってみようと、シカやイノシシ肉を使って何かできないか試みている。山芋についても、また、お米を粉にした米粉を使って何か商品ができたらいいなと思って、地域支援企画員の北村さんや依光さんにお世話になってやっている。どなたかご存知であれば教えていただきたいが、シカの価格を知りたくて、依光さんに大分ご尽力いただいて、いろいろなところに聞いていただいているが、分からないので、分かる方がいらっしゃったら教えていただきたい。それと、鳥獣被害対策事業ということで、メスジカとオスジカを捕獲したら報奨金が出る。ただ、実際、山でシカを捕らえた場合に、メスかオスかは分かりにくいのではないか。写真を撮ってきなさいということで、補助金と同じである。あれをしなさい、これをしないと補助金をやらないよというのではなくて、簡潔に処理できる方法はないかなと思う。メスジカが子どもを産むので１万円と区別することも分かるが、捕獲する方にしたら、オスもメスもない。１頭につき 7,500 円とか、一律にしていただいた方が処理がしやすいと思う。

知事：道の話は本当に良く分かっていて、全国の知事の中でも最も熱心に取り組んでいる知事だと思っているので、国政、県政、市町村政と一体となって、この問題には取り組んでいく。地域の声の盛り上がりがすごく大切なので、それをもって国に訴えていくということが重要であるし、我々も先ほども申し上げたように、道路の評価自体のあり方を変えさせようというくらいの勢いでやっている。

２番目の加工品の話については、先ほど申し上げたとおりだと思う。馬路村みたいに全国に

展開する、さらに、間伐材で作った鞄については、毎年400個くらいアメリカで売れていて、輸出も目指しているそうである。そういう20何年かけて育ててこられたトップスターみたいな事例もある。ただ、地域で加工して地域で売る、そして、いらっしゃった観光客に売れればこれは外貨を稼ぐことになる。なので、地域での加工はすごく重要なことだと思うし、県全体の底上げを図るという点からは、県内のあちこちでそういうことをやられ始めるということが大切だと思うので、是非頑張っていただきたいと思う。ご成功をお祈りする。

シカの問題は、いろいろな怒られ方をしている。山に入ってもシカはそんなにすぐ捕れないとか、遠くから見ても分からないとか。ただ、やはりメスの方にインセンティブをかけたいというのもある。報奨金を払うようにしたのは、シカは肉がものすごく少ないので、あまり捕ってもお金にならない。それであっても、シカを撃っていただく、狩猟期でもシカ対策が進むようにしたいということで始めたもので、１シーズンやらせていただいて、メスとオスでインセンティブが働いているかどうかを調べさせていただいて、その上で対策を考えたいと思う。

【ボランティアグループの取り組み、高規格道路の整備】

Ｉさん：ボランティアグループの代表として私たちの会の活動を紹介させていただく。国道 55 号から役場にかけて、道路を広げるに当たり、住民に説明会があった。図面を見ていたとき、空き地があるのに気づき、その使い道をお聞きしたら、副町長さんの「誰か花でも世話をしてくだされば」との言葉に、私たちがボランティアで町の入口に花を咲かせてきれいにしようと思い、お引き受けしたのが活動のきっかけのように思う。また、平成 14 年７月に国道 55 号の安田川大橋の西詰め、信号の下にある花壇も一緒に手入れをすることとなり、国土交通省さんと、安田町役場と、私たちが協定を作って、ふれあい街道ボランティア・サポート・プログラムに入会させていただき、活動をしている。国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所さんより、平成 16 年８月に感謝状をいただき、また、今年８月には表彰状をいただいて、ますます張り切って花壇の手入れや、道路の美化活動、バス停の掃除にといそしんでいる。四国を８の字で結ぶようにと、８月８日の 88 クリーンウォーク、四国 88 か所遍路道を世界遺産へと、ボランティア活動を通じて、いろいろな人々との交流もしている。このほど、商店街の一角をお借りして、歩き遍路さんにお接待をしようと始めた。安田町には第 27 番札所の神峯寺（こうのみねじ）があり、歩きの遍路さんもたくさんいらっしゃるので、お茶のお接待を始めている。

私たち住民は、自分たちのできることは、隣近所みんなで手をつなぎ頑張っているが、自然災害や病気などで緊急を要するとき、高知市は遠くに見える。台風の越波被害で国道が通行止めになったり、大雨で山が崩れたり、道路は人の命を守るために本当に必要である。命をつなぐ道として、国道 55 号１本だけではなく、１日でも早く東部にも地域高規格道路を通していただきたいと思っている。

知事：お話を伺っていると道路の話は先ほどから何回も出てきている。これこそ地域の皆様の声で、悲願ということだと思う。我々もありとあらゆる知恵を使って一生懸命頑張りたいと思う。

歩き遍路さんのお接待や、お花の話を伺ったが、これは本当にありがたいことで、素晴らしいと思う。「じゃらん」という雑誌のアンケート調査の結果で、高知県は、食べ物のおいしいところとして去年は１位で今年は２位である。食べ物がおいしいというのは、素材が良くて、調

理法が良くて、雰囲気がいいということなので、総合力の勝利だと思う。もう一つ、「もてなしの心を感じた」については、去年が４位で、今年も４位である。土佐の人は県外のお客さんたちに優しい、温かい心を持っている。これも非常に大きな観光資源だと思う。先ほども申し上げたが、都会に観光商品としてどんどん売り込めるような、かつ、お金も落としてもらうような仕組みづくりについて、もう１段、２段の工夫が必要だと思う。それができれば、地域の所得も上がっていくのではないかなと思っている。その勉強を今、一からしているところである。

【沿岸漁業振興対策、南海地震対策としての四国８の字のネットワークとヘリポートの整備、企業誘致】

Ｊさん：漁業協同組合支所のＪです。これまでの発言と重複する点があると思うが、３点申し上げたい。１点目、沿岸漁業振興、２点目、南海地震対策、３点目、企業誘致についてである。

沿岸漁業は、新聞等で報道のとおり、原油価格や機具などの資材が高騰し、一方、魚価は低迷を続けていて、今や漁業経営自体が成り立たないような状況に陥っている。こうした状況に加えて、台風襲来時等の暴風の際には、発電用のダムから奈半利川への濁水の放流が長期にわたり、その濁水が本町沿岸に滞留して、不漁の原因の一つになっている。機会あるごとに、電源開発株式会社に濁水軽減を求めてきているが、自然相手の面もあり、大きな改善が見られない。こうした厳しい沿岸漁業の実態の中で、漁民は日々経営努力をしているが、限界を迎えている。知事には、こうした漁民の窮状に対し、漁業振興対策にお力添えをお願いしたい。

次に南海地震対策について、今世紀前半の発生が予想されている。安田町は海岸沿いに国道が通り、防波堤の役割を兼ねているが、その国道のすぐ北側には人家が密集している。地震が発生した場合には、７m近い津波が押し寄せると予想されている。また、ここ数年、台風による越波で、本町の国道が再三通行止めになっている。１次産業主体の私たち東部地区では、農産物などの流通に支障が出てきている。そのために離岸堤整備など、現在の国道保全対策と、災害時などの代替道として、四国８の字のネットワークの早期整備にさらにご尽力をお願いしたい。また、地震が発生した場合には、人命救助や物資の輸送にヘリポートが不可欠だと思われるので、東部地区にヘリポートの整備を検討していただきたい。

３点目、企業誘致。私たちの町では少子高齢化が急速に進んでいる。この要因はやはり若者の働く場所がなく、高知市や県外に出て行っていることにある。このために、企業誘致による、働く場所の確保が重要と考え、数十年前から工業団地を整備し、企業誘致を進めてきているが、空港や高速のインターチェンジからも遠く、なかなか実現しないのが実態である。町長も力を入れてやってくれているが、知事にも一層の力添えをお願いしたい。企業誘致ができれば、周辺町村を含めて、若者の定住やＵ、Ｉターンにもつながり、地域に活力がよみがえると考える。

知事：まず、沿岸漁業の問題だが、原油価格の高騰の問題と魚価の低迷の問題がある。特に魚価の低迷の問題について言えば、流通対策、販売対策と、今後より一層力を入れていくべきところが残っている。県一漁協になって、直販所も設け、さらに、流通販売における価格競争力も高めていくという一つの契機が出てきているのかなと思う。産業振興計画の漁業の部分については、生産をいかに上げるかという今までの指針だけではなくて、流通・販売部分をどうしていくかということを新たに組み込もうとしているので、勉強を続けさせていただきたいと思う。

原油価格の高騰については、国が、過去のものに対して、９割分、価格の上がった分を補填するという制度を作っている。基準年を柔軟に取るようにしたので、それなりに使える制度になっているので、是非ともまずはそれをお使いいただきたいと思う。電源開発さんには、私、いずれ行かなければならないと思っている。濁水の問題は自然相手なのでそんなに簡単なことではないが、先ほども申し上げたとおり、清流こそ高知県の財産であり、今までに比べて濁水の問題に真剣に取り組みたいと思う。

８の字の話は先ほどまでに申し上げたとおりで、ヘリポートの問題については、今の段階でははっきりしたことを申し上げられないが、いろいろと勉強させていただきたいと思う。

企業誘致の問題では、補助金や減税だけではどうしても他県に力負けをする。なので、今、一生懸命やろうとしているのは、いろいろな物を作る工程があるが、前工程から後工程にかけて工程に穴が空いている部分を狙って、できるだけ効率的な企業誘致をやろうと心がけている。前後が高知県にあると、それだったら行こうかということになる、実際に小規模のもので成功しているものにはそういうものが多い。そういう努力を町長さんとも一緒に手を組みながらやらせていただきたいと思う。高知で前後の工程がそろっているところの間を埋めてもらうような企業誘致ならば、補助金や免税の関係で力負けをしたとしても希望があると思っているので、そういうところを狙っていく。他には、工科大学の技術やパテントを利用するといったことも考えていきたいと思っている。

（会場の方からのご意見等）

【対話と実行、地域の活性化、四国８の字のネットワークの整備】

Ｋさん：まず、知事さん。戦後、自治法ができて 60 年、歴代の知事さんは全国的に名声を博した人ばかりだが、スタッフを連れて、対話と実行をされたのはあなたが初めてで、県民の一人としてお礼を申し上げる。次に、有岡町長は、平成 12 年に町長に就任して、住民との対話と実行を平成 12 年からやっている。ご列席のスタッフの皆さん、そういうことで一つ安田町を見直していただきたい。県の真似はしていない。次は、非常にぶしつけな言い方だが、住民の代弁者である浜田県議に、泣き言、甘えを申し上げる。浜田県議さんはもう県議の中ではベテランで副議長の重職を担われている。県議の任務は県政一路にやっていただくのが本旨だが、ベテランになったら、県政のことと併せて、地域の活性化に汗を流していただきたい。秋になるとそれぞれ地域で運動会がある。その運動会の種目にムカデ競走がある。常に優勝するチームを見ていると、先頭の選手が、後ろを見たら前に進まないので、後ろを見て声をかけずに、前を向いて号令をかけて、チームが転ばないようにリードしている。浜田議員さんにはこのムカデ競走の先頭に立っていただきたい。中芸の５人の町村長、議長は言うに及ばず、信条、思想は異なっても、地域のために町会議員の足もくくって、県政にまい進をしていただきたい。もう一つ、４県の知事の対話などでも、必ず８の字の四国の道のことが常に言われる。高知県の住宅は、東向きか南向きで、大工さんに聞くと、家に入るのに東から入って、南に門を作るのが一番いいということである。ところが残念かな、高知県は、北から県の中央に道を抜いて、東にも道があるがこれは続いていない。県議さん、一つ縁起直しをやっていただきたい。

知事：浜田副議長は県議会でもすごいですよ。地域の話でもそうであるし、特に高規格道路の話

については、リーダー的な存在でやっていただいている。今のムカデ競走の話は非常に参考になった。私自身も、県庁の職員と仕事をする点においても、また、いろいろな連携を取らせていただくにおいても、今の話を大いに参考にさせていただきながらやらせていただきたいと思う。高知県では、物を作っているところは東と西にあるので、これが完成しない限りにおいては、本当の意味で高知と高松を結んだ高速道路が効果を発揮しないのかもしれない。なので、道のことは本当に頑張っていきたいと思う。

浜田県議：今日、発言者の中で共通しているのはやはり道路の問題ではないかと思う。今、知事からもサポートいただいたが、高規格道路のことについては、国の権限代行制度を導入いただけるように今知事に陳情しているところである。議員連盟もできて、一生懸命動いている。

また、今日は１次産業の関係で重いご意見があった。園芸農業では、例えば今、安田町、東部地域はナスの王国であるが、系統率が多分 53%、54%くらいではないかと思う。これが 50%を切ると、国の価格安定制度に乗らなくなるので、大変な状況になってくる。その中で、系統外に逃げていく方が非常に多いのは今喫緊の課題である。今の園芸連に何が不足しているのかというと、それは流通システム、あるいはマネジメントシステムで、園芸連の中で、かつてのマル高にあったいい部分を吸収していかなければいけないと思っている。林業の問題では、大変いいことを言っていただいたが、複雑な造林補助事業のシステムを何とか簡素化しないといけない。また、最終的には林家が 32%負担しなければいけないというのも大きな問題である。造林補助事業は複雑で、地域からのリクエストに応じているばかりで 100 通りにもなっていて、県の職員でもこれをすべて分かっている人はいない。森林組合でもこの担当の職員が１人かわってしまったら全然動かないというような状況になっているので、これを抜本的に、ゼロから見直していくということが大切である。そのためには、地方分権が進む中で、補助金ではなくて、一括の交付金として県がもらえるようになっていくという方向で政治的に動かなければいけない。それに努力したいと思っている。

【農業についての将来の見通し、合併問題】

Ｌさん：２点ほど聞きたいが、まず、農業の現状、安田の現状について。Ａさんから非常にきめ細かな質問がされたが、今の日本の農業の置かれている現状についてお聞きしたい。今自分はタバコを作っているが、４～５年前に関税が撤廃になって、外国製品が安く自由販売され、いくら努力しても、タバコ産業は厳しい状況である。日本の主食のコメについても、この前新聞に、豊作で 10 万トンくらいは最低余ると載っていた。ＷＴＯで、農産物について、国際的に日本の政府も突っ張ってくれているが、これがいつまで突っ張れるものか、将来的にどのような見通しになるか、その見通しを伺いたい。

そして、合併について、小泉さんが合併の地方分権を進めて、そのあおりで、特に地方はどんどんさびれて、高知県は失業率も高く半分しか仕事がない状況である。高知県で良い人材が育っても、それを受け入れる企業がなく、どんどん都会に流れている。合併は今のところ足踏みになっているが、２年くらい前に、前知事さんが合併してもらわないといけないということで、話をしに来ていた。今日は合併問題について出ないので、そのことについて知事さんから一言お願いしたい。

知事：ＷＴＯの話について、要するに何を守って何を譲るのか、これをはっきりさせることだと思う。これは外交交渉で、国が欧米の人やインドの人などと戦っていくわけである。なので、本当に大変なことではあるが、大切なことは、国の中で徹底的に声を上げて、外交交渉のテーブルについている人の後ろから、とにかく背中を押すこと、これを徹底して続けることではないかと思う。

合併の問題の前に、若者がどんどん県外に出て行くという話。直近は52%、去年は48%の若者が高校を卒業して県外に出て行った。ただ、４～５年前は４人に１人だった。４～５年くらい前から、日本全体、県外は景気がどんどん良くなるが、高知県だけ変わらないので、県外に職を求めてどんどん出て行ってしまった。なぜ高知県だけ変わらないのかと言うと、県外はいわゆる輸出という形で、外に販路を求めていった。高知県は、外に販路を求めるより、県内だけであった。どうしてもそれでは伸びなかったという構造的な問題がある。これを回復することが第一だと思う。合併の問題と、県経済の活性化という話については、合併することが、地域の活性化につながるところと、つながらないところがあると思う。市町村としての独自の売りというものを引き続き守っていきたいというところもあると思う。他方、ある程度まとまることによって、より大きい行政ができるとか、商圏が広がるよすがになるといったところもあると思う。行財政の改革という観点からいけば、私は合併は進めるべき方向だと思う。先々、もっと少子高齢化が進んでいく中で、財政を維持するとか、行政レベルを維持するためには、大きくまとまっていくというのは一つの方向性だと思う。ただし、合併という形の中間もあると思う。広域連合を組むとか、共同で事務をやるといったことである。合併特例債といったインセンティブが今はなくなっているので、最終的な判断は、一定程度、地域地域での話し合いを尊重するということではないかと思うが、少なくとも、いろいろな行政の広域化、先ほどの中間段階の話は進めていかないといけないのではないかと思う。

【イモリについて】

Ｍさん：安田町にはまだイモリがいる。昔から、イモリの惚れ薬というものがあるが、この薬を私は秘伝の方法で作ることができる。必要な方は私のところまで言ってきてください。

（知事のまとめ）

皆様方、長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。本日は、厳しい現状についてのご意見、前向きなお取り組みについてのご意見、教育問題についての詳細なご意見、また、道路の問題についてのご意見、様々なご意見をいただいたと思っている。大切なことは、聞きっぱなしにするということではなく、いただいた情報を県政に具体的に活かしていくということだと思っている。個人情報に配慮して議事録を作り、関係各課で情報として共有するし、私もすぐさま対応すべきことは、部局長を始め、関係課に早速話をしたいと考えている。

高知県の抱える課題は非常に多様で、かつ困難なものがある。残念ながら、県の財政が何でもできるという状況にないのもまた事実である。しかしながら、何も知らないでいるのと、知っていて何とかしなければならないと思いつつタイミングを計っているというのでは、大きく違うと思うし、また、課題に対して、最も効果的なところに重点化して対応するということも

できるのではないかと思っている。そういう知恵を練るにしても何にしても、すべての原点は本日のような場でいただいたご意見である。本当に今日はありがたいご意見をいただいたと思っている。今後とも頑張っていくので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げたい。